

楽 読 楽 書

第43号

令和2年10月発行

精華町立図書館

所在地：〒619-0285 京都府相楽郡精華町大字南稻八妻小字北尻 70 番地
電話：0774-95-1911 FAX：0774-95-3976
HP：https://www.town.seika.kyoto.jp/toshokan/index.html



おすすめの作家

中面特集：読んでよし、観てよし

作家“三宮 麻由子”とは？



東京生まれ。2001年『そと耳を澄ませば』で日本“エッセイスト・クラブ賞”を受賞。

幼くして視力を失いながらも、音を大切にした絵本やエッセイを多数出版し、講演・テレビ・ラジオ出演など、幅広く活躍。

朝起きてから、夜寝るまで、いや寝てる間も世界はたくさんの音であふれています。当たり前聞き流している音、心地よい音、雑音と感じている音、全てに色々な風景があります。作者の描く絵本には聞き流していた“音”の大切さと楽しさが、たくさん詰まっています。

『でんしゃはうたう』は、最初から最後まで、電車の中で聞こえる音だけが描かれています。声に出して読むと、実際に電車に乗っている気分が味わえます。

食べ物の好き嫌いが多い子に読んでほしい『おいしいおと』。ひとつひとつの食べものの食べる音がリズムカルに表現されていて、読んでいると思わず一緒に口が動いてしまいます。

そして一番のおすすめは『かぜフーホッホ』です。風が奏でるさまざまな音と女の子が楽しそうにはしゃぐ姿の絵がぴったりで、ほほえましいです。絵本だけど映像を見ているような、わくわくする一冊です。

季節ごとに「聴く」「匂い」「触れる」「食べる」という4つのテーマで紹介される俳句と著者の思い出。とにかく、表現力が素晴らしく、

この状態をこういう言葉で表現するのか！と驚くこと間違いなし。

著者がつむぐ言葉から四季を感じる事ができ、家こもりにぴったりの本です。

エッセイ

『坊ちゃん』『博士の愛した数式』『ハリーポッター』など、聞いたことがない人がいないほどの名著を独特な視点で読み解いていきます。作者の実体験と文学の紐付けが面白い“読書エッセイ”の世界へどうぞ。作中に出てくる「シーンレス」という言葉にも注目してほしいです。

911.3 『四季を詠む』

『世界でただ一つの読書』 019